

常総学院同窓会会報

発行／常総学院高等学校同窓会 編集人／同窓会会報編集委員会 委員長／飯田晃久 印刷／(株)塚田印刷



ごあいさし



学校法人 常総学院
理事長
櫻井 富夫

同窓会の皆様には常日頃より本学院の教育活動に際しましては、ご理解、ご協力を賜りまして、心より深く感謝申し上げます次第でございます。

今年の夏の春夏通算十六回目の甲子園出場に際しましては、試合日までの期間が例年になく短かったにも関わらず、皆様の絶大なご支援を賜りまして、誠に有難う御座いました。さて、本校は開校以來、地域・社会に貢献できる人材の育成を目指してまいりました。その為の手段として、

将来活躍できる幅が広げられるよう全員四年制大学への進学を勧めて参りました。常総生としてのプライドを持ち、ノウヴレスIIオブリージュ(優者の責任)を自覚し、自己の利益よりも社会的責務を優先する使命感を持ったエリートを育てる事、それが本校の使命です。明治維新を断行し、新日本の指導者となったのもこのような意識をもった下級武士たちでした。社会そのものの教育力が著しく低下している現代社会にあって、人としての基本的

な嫉、人格教育は高校までの中等教育の場で以前にも増して非常に重要な位置を占めてきております。大学が学問探究の場である以上、高校教育が最後の砦にならなくてはなりません。然るに、最近、どうも学校が嫉の部分で生徒に安易に迎合してしまう風潮が目立ちます。時代が変わろうと人として不変のものはあるはずで、社会の方向が常に正しいとは限りません。

基本的な生活習慣を身に付けて、落ち着いて学習できる環境下にあつて、三年間での学力の伸びは県内でトップクラスにランクされています。これらは最近、週刊誌でも取り上げられ話題になりました。サンデー毎日や週刊東洋経済で「入学時の偏差値に比べ大学合格実績が高い」「しつけ教育に力をいれている」以上の項目は首都圏でいずれも四位、「入ってから学力が伸びる」お買い得「校はここだ」の項目で全国第一六位（茨城県ではトップ）等で評価されております。

どうか本校の教育方針をご理解頂き、共通理解のもとで、共に生徒の成長に貢献できればと考えております。今後とも宜しくご支援ご鞭撻の程お願い申し上げます。

卒業生より

「財産」

北海道日本ハムファイターズ
九期生 金子 誠



私の常総学院生としての三年間は、これまでの人生、そしてこれからの人生において「思い出」なだけでは語る事のできない出会い、経験をし、現在に至る土台となる月日を過ごしたいわば私の大きな「財産」となる三年間でした。私の「財産」とは、今のプロ野球選手としての生活に大きく影響を与えてくれた常総学院野球部生としての三年間に集約されます。

当時の監督、木内幸男氏のもとで野球を学び、甲子園に出場するという夢を抱き、常総の門を叩きました。小さな学区だけの小中学校を過ごした地元を離れ、県内外から集まる野球部での寮生活が始

まります。当初は夢や希望以上に不安も大きかったのを憶えています。当然な事ですが、隔離された中での先輩後輩の縦社会、初めて会う仲間、全てがライバル、しかしチーム。皆で同じ屋根の下で同じ釜の飯を食い、同じ目標に向かって切磋琢磨し、親の干渉も許さない世界で（最近ではちがうみたいですが）それぞれが己を磋いていく。そんな生活の中で、学校生活では学ぶ事のできない忍耐力、要領、なによりチームメイトとの絆を手に入れる事ができた気がします。チームも自分も強くなつていくのを実感していきました。たくさんさんのものを手に入れたうえに夢を叶える事ができたのです。私も当初は進学も考えていましたが、甲子園へ出場してさらに広い世界を見た事で、私の人生が動き出し、また恩師や仲間の助言と支えなどもあつて、今の世界へ飛び込んできました。

現在は、家族に支えられプロ野球選手としての日々を送っています。この世界で十三年過ごせている事は、常総学院での恩師、仲間との出会い、彼らと共に生活した三年間があつてこそ。毎年高校野

球シーズンになると誰もが常総の名を知っている事にいつも胸を張ります。私がそこで大きな「財産」を手に入れた事にも。



一橋大学 商学部卒
現(株)損害保険ジャパン 総合職勤務
十六期生 大嶋 優佳



常総学院を卒業して早くも五年。二〇〇一年三月に卒業し、同年四月に一橋大学商学部入学。二〇〇五年三月同大学を卒業して同年四月に(株)損害保険ジャパンに総合職として入社しました。
〈大学時代の主な活動〉

①国際交流団体での活動 ドイツ・香港の学生と交換ホームステイによる交流活動。一橋大学はド

イツのケルン大学、香港の上市大学と提携しており、私もケルン大学の学生と交流する機会をもつことができました。互いの国を訪問し合い、伝統行事への参加・観光・企業訪問・デイスカッションなど、本当に語りつくせないことをやりました。基本的にまじめなドイツ人が市民一丸となって仮装し、ビールを片手に三日三晩歌い踊り歩くカーニバルにはあつげにとられつつ、二日目にはすっかりはまりこんでいました(笑)。他、フォルクスワーゲン本社で感じた顧客サービスの徹底ぶり、ベルリンに色濃く残る戦争の傷跡など、語りたいことは多々あります。

②ゼミ活動

マーケティング。主に

「一橋」といわれているように、一橋大学はゼミ活動を重視している大学です。興味のある分野の教授のもとで二年間勉強し、卒論を書くことが全員必須。学生によって差はありますが、勉強好きの人間が本場に多いのです。当初は戸惑いもありましたが、卒業するころには寧ろこの環境にもうしばらく浸かっていたいという名残惜しい気持ちに変わっていました。卒業論文は「女性の価値観・仕事・消費における変化を生産と消費の場で活用する」をテーマに、八〇ページほどの本を書きました。

〈現在の仕事〉

営業活動。営業といっても直接顧客に売って契約をとってくるわけではありません。損保営業は代理店営業と違って、保険商品を販売する代理店の指導育成を行うのです。外資系損保が参入し、競争激化の中で他社よりいかに優れた提案ができるか、また既存代理店の意欲をいかに高めるか、そして生保分野の販売をいかに伸ばすかなど課題は多々あり、多忙の日々です。研修を終えて配属されてからまだ半年なので、大変なことが多くありますが、周囲の人に恵まれ、仕事自体にやりがいも感じています。販売促進を続けたことで担当代理店の成績が上がったり、代理店と協力して大口契約を取り付けたときのなんともいえない嬉しさが活力を生み出してくれています。

〈常総時代を振り返ってこれから〉

常総時代に学んだことは、「目

標を掲げ、それを達成するためにどのように取り組み、結果を出すか」というプロセスの基礎。それが何らかの形で大学時代そして社会人になった今も生きていると信じています。

在学中、先生方には大変お世話になり今でも感謝の気持ちでいっぱいです。最後になりますが御礼申し上げます。ありがとうございました。

筑波大学第1学群自然学類数学専攻卒業
常総学院高等学校非常勤講師(数学科)
十六期生 豊崎 絵美

高校時代を振り返ると、先生方や友達と充実した毎日を過ごしていたように思います。放課後には、わからない問題を先生に質問したり、友達どうしで教えあったり、たわいもない話をして楽しんだりしました。修学旅行やクラスマツチでは、日々の勉強から離れて交



流を深めたりしていた、高校でのあの三年間がとても懐かしく感じられます。

私は、数学が好きで、数学をもっと知りたいと考え、大学では数学を専攻しました。数学について勉強する一方で、数学の面白さや美しさを子どもたちに伝えたいという思いから教職を目指し、母校である常総学院で、恩師である先生方の熱心なご指導の下で教育実習を行えたことが、教職に就きたいという思いをより一層強くしました。

その後、大学院へと進学し、現在は、大学院で数学教育について勉強しながら、常総学院の非常勤講師として生徒たちの前に立っています。学ぶことよりも教えることの方が難しく、少しでも多くの生徒にわかってもらうにはどうしようにすればよいのかを考える日々を過ごしていますが、常総学院の生徒であった経験も生かせればなと思います、これからも生徒たちのために努力し続けていきたいと考えております。

皆さんの、それぞれの道での活躍をお祈り申し上げます。

常総学院と今の私、未来の私

慶應義塾大学 経済学部卒
現 (株)日本航空インターナショナル勤務
十六期生 阿部元久



私は今春より日系の航空会社で新入社員として働き始めました。

日本と世界の架け橋になりたい、という私の夢の第一歩として縁を結んだ会社です。外交官として国交の橋になるのも、チョナンカンのように韓国語で歌を歌うのも本當の橋、私は自分だけがなれる橋を探して大学時代を過ごしました。中学時代の東南アジアでの在住経験、大学時代のインドでの長期インターンシップなどを経て、また、学び続けている茶道や大好きな日本の歴史や文化を魅力のある言葉(もちろん英語ですが)で外国人に伝えることのできる人材になりたいと次第に考えるようになったのです。

そんな今の私の基礎を作ったの

内進二期生成人を祝う会を終えて

代表幹事 伊藤俊介

去る二〇〇六年三月一九日、第三期生の成人を祝う会を行い、大変楽しい時間を持つことが出来た。私は本来、幹事ではなかったのですが、はじめは色々分からないこともあったが、家族や先生方、そして友人達から多大なる助けをいただき、無事に任

事を全うすることが出来た。この文章を書くに当たり、まずお世話になった方々に心からの感謝を申し上げたい。

さて、今回の会を通して私が一番思わされたことは、常総時代の友情はいまも生きている、ということであった。

「私は世界に二つの宝を持っていた。私の友と私の魂と。」というの、二〇世紀初頭に活躍したフランスの作家、ロマン・ロランの言葉であるが、私が常総時代に出来た友人が、何物にも代え難い宝だと感じた出来ごとが、会が行われる数週間前に

あった。それは友人Tからの一本の電話だった。

「参加者があまり集まってくなくて、幹事が困って泣いてるって噂を聞いたんだけど…」

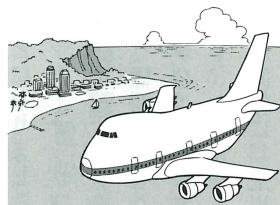
その当時、たしかに参加者が集まっていなかったが、私自身は特に気にしていなかった。しかしTは心配をして、励ましの電話を掛けて来てくれたのだ。

私はそのことがとても嬉しかった。絶対に同窓会を成功させなければならぬと思った。この一本の電話は私の中で大きな原動力となり、その後も様々な友人がメールを通して手助けをしてくれ、時には一緒に学校まで行って計画を立てたりして、最終的には多くの友人に「楽しかった。またやりたい。」と書ってもらえる会を作り上げることができた。私自身は、こんな感じでよかったのかと不安もあったが、友人たちの笑顔とその言

葉を聞いて、やってよかったと心から思えた。私は今、この素晴らしい友情を確かめ合うことのできる成人を祝う会が、常総学院中学校の伝統になることを強く望んでいる。

最後に、常総時代に学んだ孔子の言葉を：「朋有り遠方より来る。また楽しからずや。」





が常総学院でのあの三年間だったと私は自信を持って振り返ることができません。県立高校への受験を失敗して入った常総学院で、私はかけがえの無い恩師と友人に出会うことができました。英語の力が開花したのも、日本史に大きな魅力を感じたのも思えば常総での授業によってでした。大学受験に無事合格して、私は「失敗は成功の足掛かりなんだ」という確固たる自信を取り戻し、失敗に直面したときに、その現実を大肯定する生き方を学んだと思います。

私は今でも、入学式で常総が誇るブラスバンドの演奏する「威風堂々」で歓迎してくれたことをはつきりと覚えています。これから、私は自分の夢に向かって、常総での大切な三年間を胸に精一杯羽ばたくことを誓います。航空会社に興味のある人、いつでも連絡待っていますよ！



二十期生 生徒会長 櫻井 勝

あの厳しい受験を乗り越え、今は新たなステップである大学生活を送っています。

私は現在、茨城大学の工学部、都市システム工学科という、土木工学と建築学科の二面を持つ学科に在籍しています。茨大にはキャンパスが三つあり、水戸・日立・阿見にあります。工学部は二年次より日立キャンパスに移り、本格的な研究が始まります。今は、その専門の基礎知識の習得や教養科目をとったりしています。

大学生になって感じることもあります。まず、時間の使い方です。授業編成は自分が受ける授業の取り方によって一人一人変わり、また授業がないと、バイトや部活などに行けるので、時間を上手く使えるようにした方が良いと思います。ちなみに、私は夏には高校野球の県予選を見たりしていました。

次に感じることは、全国から来る人たちと付き合える点です。高校では、他県からの人たちも何人かいましたが、大学では、それ以上に県外からの人が集まってくるので、本当に出会いの場所としては良い所だと、改めて感じました。これからもまた多くの人々と出会っていきたいと思います。

私は大学で今、多くの事を学んでいる最中です。特に、教養科目では、学べば学ぶほど現在の社会について考えてみたり、調べたり、時には友達と話すこともあり、それだけ大きな視野を持つことができたのに違いありません。確かに自分の好きな科目しか取らないから、という部分もあるかもしれませんが、それよりも、「自分ではこれを学びたい」という気持ちがあるからこそ、深く考えることができると思います。だから、私の大学生活は充実しています。私は自分の専門を武器に、人前で教えたり、恥ずかしくない形で、社会貢献をするのが、最終目標であります。

最後になりますが、自分の「夢」を追い続け、日々努力している皆さんに対してエールを送ると共に、

学校のさらなる発展を祈っています。未来に向かってがんばってくださいませしよう。

在校生より

高等部

マナーの向上

高等部三年 生徒会長 中島直輝

茨城県の教育委員会が推進している「高校生さわやかマナーアップ運動」に本校でも三年前から取り組んでおり、私も昨年生徒会長に就任し、このマナーアップ運動





に参加することになりました。本校で行うマナーアップ運動は、校内では「制服に対する意識を高めよう」という標語をのせたシールをポケットティッシュに貼り、各生徒に対して、あいさつをしながらか配ります。同様に、荒川沖駅では「社会のルールを守ろう」という標語を使い、他校の生徒や社会人に対して、あいさつをしながらか配ります。また、この活動は、生徒会はもちろん、各クラスの委員長、風紀委員、生徒会実行委員を中心に行っており、活発に行われました。

私は、この運動を通じ、地域の

人々や高校生に、マナーの向上を意識してもらい、またこの活動が更に有意義なものとなることを願っています。

数学オリンピック

高等部三年 川崎 盛通

結果的には本選にも合格し、代表選抜のための合宿にも参加した私でしたが、元々は予選に合格すればよく、本選合格はかなり厳しいと考えていました。

なぜなら過去問を見ても本選の問題はほとんど解けなかったからです。なので本選本番では五問中一間完答できればいい(合格するには約二問完答一間半答できればよいとされる)と考えており、本番で二問完答し、二問の結論の予想ができたときには驚きました。過去問を見る時にはすぐ答えを見てもしまつても、本番では答えを見ることが出来ないのです、その分じっくり考えることが出来たから解けたのかもしれない。本番で何が起ころかは本当にわからないのです。

本選に合格して参加した合宿ですが、ここでは、代表選抜の試合が一日三問、四日で計十二問で行

われるのですが、完答が一間もできませんでした。その試験のレベルは国際数学オリンピック(ここに出場する選手を決めるためにこの合宿がある)と同じもしくはそれ以上らしく、それを知らずに合宿に来た私にはとても歯がたちませんでした。しかし合宿参加者と友達になれたことはかなり大きな成果でした。数学以外の教科もかなりできる人も多く、本当にすごい人がいるものだと思えました。「井の中の蛙大海を知らず」と言いますがまさにその通りです。

最後にこれを読んでいる高二以下の皆さんに数学オリンピック受験をお勧めしたいです。私は本選に合格して、大きな自信を手に入れましたし、素晴らしい人たちと友達にもなれました。また対策用の勉強も受験に役立ちます。もし数学オリンピックを受験を希望される方がいましたら気軽に相談してください。

中部部

ハローウッズの森

中等部一年 松浦 百花

私は「ツインリンクもてぎ」で、「なるほどすごいな」と思った事



が二つあります。

一つ目はハローウッズの森の道のしきつめられていたチップです。このチップは、生き物にも被害をあたえず、人も歩きやすいので道にしいたそうです。しかも、水はけがよいので、水不足にはなりません。こんなに便利なのに、チップは最後、土になるそうです。これにはおどろきました。生き物、虫たちの役に立って、自然にもどる、という便利なチップをもっともつと活用してほしいと思います。二つ目は、森のトイレです。こ

のトイレでは、トイレから出た物を、地下で微生物が分解してくれます。そして、水になるのです。しかし、その微生物は、色を変え、事が出来ません。多少、色がついたままですが、飲めるそうです。私は、森のトイレの水のように、学校のトイレも、家のトイレも、微生物がきれいにしてくれたいいなと思います。でも、そこが自然に恵まれてなければいけません。どうして人は、自然に恵まれたきれいな場所を、道路やコンクリートで固めてしまったのだろうかと思います。発展させたいと言って、自然をこわしていく人は、私は、まちがっていると思います。

「ツインリンクもてぎ」に行った時、半分が自然で半分に車が大きな音を立てて走っているのを見ました。だから私は、どうして、ハローウッズの下にコースを作ったのかと思います。でも、自然、自然とこだわっても人は生きていけないので、半分、半分くらいがちょうどいいのかなと思いました。

初めての宿泊学習

この「ツインリンクもてぎ」の

宿泊学習でたくさんのもので得ることができました。その中でも特に印象に残った三つを紹介します。まず一つ目は崎野隆一郎さんのトークショーについてです。

崎野さんのお話は、とても興味深いもので「崎野さんや星野さんは自分自身を他の動物と同じ」と考えていることや(例えば死ぬときは崎野さんは凍死で、星野さんは熊に食べられてというように)「明かりをつけることによつて失うものがある。(星など) 本当に怖いのは闇ではなく明かりだ。闇と向かい合う勇氣を持つてほしい」ということ、そして、「崎野さんは本を読んで生き方を決めた」と(今の人たちはあまり本を読まないが、本を読んでほしい)など、色々無理をしてまで、私たちのためにお話をして下さいました。

二つ目は、カレー作りと箱庭作りについてです。これでは、男女協力して、一人一人が自分の役割に責任を持って行動するというのがいかに大切かを感じました。だんだん活動していくうちに班がまとまってきて(チームワーク!!)カレーライスや庭にも、その成果が

つちり出てきました。そして三つ目は、先端技術と環境問題についてです。Fan Fun Lab (ASIMOを見て(ASIMOの歴史も)コレクションホールで車を比較したりして、先端技術を学び、HELLO WOODSで自然の大切さを体で感じました。これらの三つの施設を見学して「これからの時代は人間に役立つロボットや、もっと環境にやさしく快適な車をどんどんより良いものにしていくだけでなく、自然(森林、植物、動物...)も取り入れることが必要だ」と感じました。今のままでは、多



分人間も自然も共存できません。森林や動物などがあることによつて人間も生きていくことができるので、人間と自然がこれからもずっと共存できる環境を創らなければいけないと思いました。

この宿泊学習でチームワークの大切さや、これからの時代に必要なことなどを深く学ぶことができました。とても短かったけど、とても充実した宿泊学習でした。

最後に、この貴重な体験をさせて下さいました先生方、崎野さん、そしてスタッフやツールの皆様、ありがとうございました。



中等部一年 曾根 柔



ラグビー部

常総学院高校

ラグビー部監督に就任して

ラグビー部監督 石塚 武生

常総学院高校同窓会の皆様、平成十八年四月よりラグビー部監督としてお世話になって半年があつという間に過ぎました。初めて住む土地、初めての教職員としての仕事、そして初めて出会う人々、私にとって何がなんだか分からな



いまま毎日が過ぎて行く中ででの生活でした。

昨年十一月にラグビー部監督としてのお話がありました。私は高校での指導は考えていませんでしたが常総学院高校の校風と学校のラグビーへの熱い想いをお聞きし大きな決断をしました。

私がラグビーと出会って三十六年間が過ぎました。久我山高校三年生からラグビーを始めて以来早稲田、社会人のリコー、伊勢丹ラグビー、そして日本ラグビー協会にお世話になるまで選手として指導者として真剣に真面目にラグビーと向かい合ってきました。

体が小さいと日本代表を外され、悔しい思いから強引なプレーをして練習試合で大きな怪我をしてしまい、二年間ラグビーが出来ないことがありましたが、怪我をした瞬間「罰が当たった」とすぐに思いました。私は自分さえ良いプレーをすれば代表に選ばれると、勝手なプレーをしてしまったのです。それから二年間復帰する事だけを考えて練習しました。復帰後のプレーは自分の持てる力を出し切った時に、全てのプレーがチームの仲間の役に立っている事に大きな喜びを感じました。

早稲田ラグビー部の監督時は、自分の生活全てをかけて情熱を持って指導しましたが、勝つことが出来ずに自信を失い、会社を辞め全てをゼロに戻して海外へ飛び立ちました。四十六歳でした。英国でプロチームの中でボール拾い、選手達の世話をして自宅に戻るのが真夜中になる中で「俺は何をしに来たんだ、こんな事やりに来たのではない」と言う不満を持つようになりました。しかしハツと気が付きました。「会社を辞め、英国に指導者の勉強に来て、プロの中でお世話をしてきたのは全て自



分の意思でやってきたことなんだ」と言う事に。それからは良い指導者とは「ラグビーを好きにさせる指導者」であると確信しました。

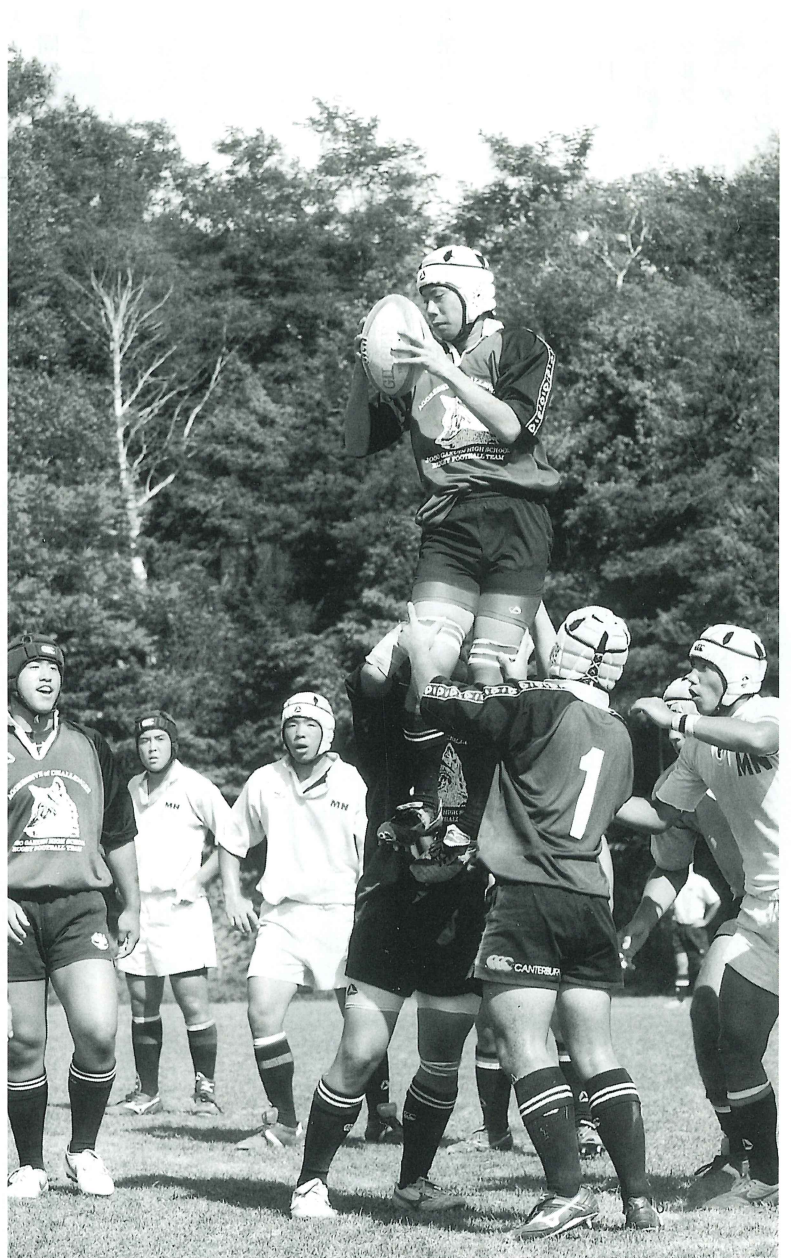
日本へ帰国して多くのチームを指導させていた中で、真剣に真面目に大きな声で選手達を褒めて励まして来ました。選手達はラグビーを好きで、自分の意思で頑張っているのです。ラグビーをする事とはそういうことなんです。

日本協会では三年間ユースの仕事にも携わり、日本代表高校生

チームを中心としたチームで世界大会に参加しました。花園出場する全国から選ばれた選手達を連れ、何度か遠征に行きましたが、私が彼らに指導した事は、ラグビーの技術ではなく「人として当たり前の事が出来る」指導でした。挨拶、約束、マナーなど人としての品格でした。ラグビーの技術が日本代表でも、人として当たり前の事が

出来ない、絶対に良いチームは作れないと確信しているからです。常総学院高校ラグビー部監督になり、私が一番最初にやりたいことは、やはりグラウンドでの指導の前に、学校が大切に行っている生徒指導（生活指導）ではないかと考えています。ラグビー部員が、技術を覚える前に学校生活をしっかり出来なければ強くなれない事を、

自覚させなければと思います。四月にまったく新しい生活になり、不慣れな事が多い中、先生方に向けていただいています。中学・高校でラグビーの授業も始まり、生徒達も楽しそうにラグビーボールを追いかけています。中学校から一人でもラグビーをやりたいという生徒が出て来る事が、理想のチーム作りです。



現在部員も少なく、力はまだまだですが、毎日元気に練習をしています。少し時間が必要かも知れませんが、生徒達は花園出場を大きな目標に頑張っています。その夢を実現させるために、私は毎日真剣に取り組んで行きたいと思っています。是非、同窓会の皆様からのお力添えをいただきたく、宜しくお願いします。

コーチ 佐藤和宏

ラグビー部は今年で創部二十一年になります。その間、ラグビーの全国大会に出場したのは平成二年（第八十五回大会）の一度だけです。現在二度目の花園出場を目標にしています。

今年三月から石塚武生新監督を迎え、新監督の熱心な指導の下、部員一丸となって毎日練習に励んでいます。

ラグビーの基本理念である「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」は、グラウンドの中だけではなく社会生活においても優れた考え方だと言われています。ラグビーを通じて培う「相手を思いやる心」は、選手としてだけでなく社会人となってもかけ

バドミントン部

バドミントン部顧問 木内 広史

がえないものになると思います。最初はみなが初心者です。興味のある方は是非グランドに足を運んでみてください。

今後とも常総学院ラグビー部に温かいご声援をよろしくお願い致します。

同窓会会員の皆様、お元気でお過ごしのことと存じます。日頃からバドミントン部に対するご支援、ご協力、誠にありがとうございます。さて、バドミントン部は今年で創部二二年目を迎えました。日々「日本一」を目指し練習に取り組んでいます。六月に行われたインターハイ県予選では団体戦で男女とも苦しみながらも団体優勝を果たし、男子は二一年連続二一回目、女子は三年連続一九回目のインターハイ出場を決めました。本大会は奈良市・大和郡山市で八月一日～六日まで行われ、男子は団体1回戦、ダブルス2回戦、シングルスベスト16、女子は団体2回戦、ダブルス2回戦、シングルスベスト32という成績でした。

バドミントンという競技は、団体戦でのチームの雰囲気はとて大切ですが、メンバーの一人一人の実力が発揮されるスポーツであり、番狂わせがほとんどありません。ですから長距離のランニング、短距離ダッシュ、ウエイトトレーニング、フットワーク、シャトル打ちなど全ての要素が重要であり、日々の練習では選手のレベルに際して技術、体力、精神力の向上を図っていきます。試合になれば最終的には体力はもろんのこと、人の心と心、技と技の戦いになります。勝ち上がれば勝ち上がるほど精神力（気持ち）が重要です。また、十月一日からルールがサブ権システムからラリーポイントシステムに変更になり、施行されました。百年ぶりの大改正により、これまでの戦略や練習方法などすべてが変化し、その対応が各チームに求められています。具体的にはよりスピーディな試合展開になり、サーブのミスでも点が入ってしまうので集中力の持続がこれらの課題だと思えます。

過去を振り返りますと、団体戦では男子がインターハイ優勝三回、準優勝二回、第三位三回、全国選

抜大会優勝五回、団体優勝一回と全国優勝十冠目に王手がかかっています。女子はインターハイ準優勝二回、三位五回、全国選抜大会優勝二回という成績を残しています。個人戦では開校以来、初の日本一を達成した現女子監督の磯部和弘先生（五期生・ジュニア・選抜・インターハイのシングルス三冠）を皮切りに男女合わせて二〇回以上の全国タイトルを獲得しています。最近では平成一四年の茨城インターハイでの女子ダブルス準優勝（岡本・清水組・一八期生）以来、表彰台から遠ざかっていましたが、六月の関東大会で男子は九年振りとなる三位に入賞し、女子も八月に行われた関東ブロック国体で激戦の関東を通過し、十月の兵庫国体出場を決め、復活の兆しを見せています。

一方、卒業生に目を向けますと、五月仙台・東京で行われたトマス杯ユーパー杯（世界男女団体戦）に本校出身の米倉加奈子（現ヨネックス・一〇期生）、坂本修一（現日本ユニシス・一三期生）が日本代表として活躍しました。結果はベスト8でしたが、二人とも大事な試合で勝ち星を挙げました。在

校生も応援に行ったのですが、大舞台で自分の実力を発揮できる精神力、そして世界のレベルを肌で感じ、生徒たちは大変勉強になりました。是非とも二〇〇八年オリンピックで北京の空に日の丸を掲げてほしいと願っています。

ここでホットな話題をひとつ。今年から顧問に加わった原田文雄先生（理科・二年目）を紹介します。穏やかな性格ですが、一本芯の通った好青年です。主に女子のコーチとして磯部先生のもとで勉強中です。

今日もバドミントン部はトレーニングのため、体育館周辺やロータリーを全力疾走しています。走る姿をもし見かけたら、「頑張れよ！」と一声かけてあげて下さい。学校、PTA、同窓会、バド部父母の会、OB・OG会など多くの方々の応援に報いるためにも、日本一に向かって邁進していく所存です。

最後に同窓会会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げ、活動報告とさせていただきます。

軽音楽部

二十二期生 軽音楽部部长

藤井 勇氣

常総学院に入学してすぐに私は軽音楽部に入りました。いざ入部してみると、七時間授業、特講、予備校などでなかなかバンドのメンバーが全員揃わず、途方にくれたのを覚えています。しかし、短時間で如何に効率的な練習をするかなどをみんなで相談するうちに、自然と自分の意見を言うように



なっていくきました。また、他人の意見も聞くことが出来、まとまりが出来上がっていったように思います。また、同学年ばかりではなく、自分が出演しないライブの時でも率先して準備や後片付けをしてくれる後輩たちに感謝しています。これらを通して卒業しても先輩方がライブを見に来てくれる理由がわかったような気がしました。軽音楽部という、あまり良いイメージは持たれないことが多かったのですが、私はこの部活動を通して多くのことを学ぶことが出来たと思っています。



軽音楽部顧問 横田 巖

在校生の活動の様子は部長に任せるとして、OB会での活動も御報告させて頂きます。同好会としてスタートして今年で二〇年目になりますが、OB会のほうも発足して一五年になります。現在、五期生の玉川知昭会長、八期生の山中(旧姓濱田)美穂事務局長以下約一〇〇名の会員を抱える大所帯となつてまいりました。年に二回会としての活動(バーベキューやボーリングなど)を実施していますが、話す内容も、大学での軽音楽サークルの様子から小学校に通う子供の様子まで様々です。最近

特に子連れの参加者が増えたように感じますが、会員の奥さんやお子さんなど、本校の卒業生でない方も協力して盛り上げてくれるのはうれしい限りです。運動部のように華々しい実績があるわけではありませんが、OB会に出席して初めて知り合いになった年代の違う会員同士が、文化祭でバンド演奏をしてくれたり、在校生へのアドバイスのために忙しい時間の合間を縫って来校してくれたり、軽音楽部にいつまでも携わって頂けることに感謝しております。



部活動実績

平成17年10月～平成18年7月

運動部

■硬式野球部

10月 第58回秋季関東地区高校野球大会茨城県大会 準優勝

11月 第58回秋季関東地区高校野球大会 ベスト8

5月 春季関東地区高校野球茨城県大会 ベスト8

7月 第88回全国高等学校野球選手権大会茨城県大会 優勝

■テニス部

11月 平成17年度茨城県高等学校新人テニス大会 男子団体 県ベスト16

5月 関東大会県予選出場(男子個人シングルス 1名)

■男子バレー部

12月 平成17年度茨城県高等学校男女バレーボール新人大会 ベスト8

平成17年度第10回全国私立高等学校男女バレーボール選手権大会 出場

2月 第18回茨城県高等学校男女バレーボール選抜優勝大会

5月 平成18年度関東高校男子バレーボール大会県予選 ベスト8

6月 平成18年度全国高校総合体育大会バレーボール大会県予選 ベスト8

7月 平成18年度第14回関東私立高等学校男女バレーボール選手権大会 出場

■女子バレー部

10月 平成17年度県南地区男女バレーボール選手権大会出場 予選リーグ敗退

11月 平成17年度高等学校男女バレーボール新人大会県南地区予選会上場

1回戦敗退

4月 平成18年度関東高等学校男女バレーボール大会県南地区予選会上場

6月 平成18年度高等学校男女バレーボール県民総体兼国民体育大会 全国高校総体県南地区予選会上場

12月 平成17年度関東高等学校新人バスケットボール大会茨城県南A地区予選会上場

4月 平成18年度関東高等学校バスケットボール茨城県南予選 3位

平成18年度関東高等学校バスケットボール茨城県予選 ベスト16

5月 平成18年度全国高校総体バスケットボール茨城県南予選 4位

12月 平成17年度関東高等学校新人バスケットボール大会茨城県南A地区予選会上場

4月 平成18年度関東高等学校バスケットボール茨城県南予選 3位

平成18年度関東高等学校バスケットボール茨城県予選 ベスト16

5月 平成18年度全国高校総体バスケットボール茨城県南予選 4位

12月 平成17年度関東高等学校新人バスケットボール大会茨城県南A地区予選会上場

4月 平成18年度関東高等学校バスケットボール茨城県南予選 3位

平成18年度関東高等学校バスケットボール茨城県予選 ベスト16

5月 平成18年度全国高校総体バスケットボール茨城県南予選 4位

12月 平成17年度関東高等学校新人バスケットボール大会茨城県南A地区予選会上場

4月 平成18年度関東高等学校バスケットボール茨城県南予選 3位

平成18年度関東高等学校バスケットボール茨城県予選 ベスト16

5月 平成18年度全国高校総体バスケットボール茨城県南予選 4位

12月 平成17年度関東高等学校新人バスケットボール大会茨城県南A地区予選会上場

4月 平成18年度関東高等学校バスケットボール茨城県南予選 3位

平成18年度関東高等学校バスケットボール茨城県予選 ベスト16

5月 平成18年度全国高校総体バスケットボール茨城県南予選 4位

12月 平成17年度関東高等学校新人バスケットボール大会茨城県南A地区予選会上場

4月 平成18年度関東高等学校バスケットボール茨城県南予選 3位

平成18年度関東高等学校バスケットボール茨城県予選 ベスト16

5月 平成18年度全国高校総体バスケットボール茨城県南予選 4位

12月 平成17年度関東高等学校新人バスケットボール大会茨城県南A地区予選会上場

4月 平成18年度関東高等学校バスケットボール茨城県南予選 3位

平成18年度関東高等学校バスケットボール茨城県予選 ベスト16

5月 平成18年度全国高校総体バスケットボール茨城県南予選 4位

12月 平成17年度関東高等学校新人バスケットボール大会茨城県南A地区予選会上場

6月 インターハイ県予選 ベスト16

■ラグビー部

11月 平成17年度全国高等学校総合体育大会兼第85回全国高等学校ラグビーフットボール大会茨城県予選 ベスト4

1月 平成17年度茨城県高等学校ラグビーフットボール新人大会

5月 平成18年度第54回関東高校ラグビーフットボール大会茨城県予選 ベスト16

6月 平成18年度県民総合体育大会兼第61回国民体育大会ラグビーフットボール大会茨城県大会 第6位

■男子バドミントン部

10月 JOCジュニアオリンピックカップ第24回全日本ジュニアバドミントン選手権大会 ダブルスベスト16

茨城県新人戦 団体2位/ダブルス2位・5位/シングルス2位・5位・8位

11月 平成17年度全日本総合バドミントン選手権大会出場 小松崎佑也

12月 関東高校選抜バドミントン大会出場

4月 関東高校バドミントン選手権大会県予選 男子団体3位

5月 関東高校バドミントン選手権大会 男子団体3位

6月 高校総合体育大会県予選 男子優勝/シングルス1位・2位/ダブルス2位

■女子バドミントン部

10月 JOCジュニアオリンピックカップ

6月 インターハイ県予選 ベスト16

11月 平成17年度全国高等学校総合体育大会兼第85回全国高等学校ラグビーフットボール大会茨城県予選 ベスト4

1月 平成17年度茨城県高等学校ラグビーフットボール新人大会

5月 平成18年度第54回関東高校ラグビーフットボール大会茨城県予選 ベスト16

6月 平成18年度県民総合体育大会兼第61回国民体育大会ラグビーフットボール大会茨城県大会 第6位

■柔道部

11月 平成17年度茨城県高等学校柔道新人大会 個人66kg級第3位 73kg級第3位 81kg級第3位 団体ベスト8

4月 平成18年度国体柔道少年男子二次選考会 73kg級第3位

5月 第54回関東高等学校柔道大会県予選 男子団体第6位

6月 第54回関東高等学校柔道大会出場

■剣道部

11月 茨城県団体勝ち抜き大会 2回戦

1月 茨城県選抜大会茨城県新人大会 兼全国大会予選出場

4月 平成18年度県南地区春季剣道大会出場

5月 平成18年度春季関東大会県予選 女子・男子個人団体 出場

ツブ ダブルス菊山久美子・高野祥代/シングルス相澤理沙 出場

茨城県新人戦 団体優勝/ダブルス1位菊山・大谷 2位高野・相澤

/シングルス1位菊山 2位高野

3位相澤 4位大谷

12月 関東高校選抜バドミントン大会 出場

4月 関東高校バドミントン選手権大会 県予選 女子団体優勝

5月 関東高校バドミントン選手権大会 女子団体ベスト16

6月 高校総合体育大会県予選 女子優勝/シングルス1位・2位・3位

/ダブルス1位

11月 平成17年度茨城県高等学校柔道新人大会 個人66kg級第3位 73kg級第3位 81kg級第3位 団体ベスト8

4月 平成18年度国体柔道少年男子二次選考会 73kg級第3位

5月 第54回関東高等学校柔道大会県予選 男子団体第6位

6月 第54回関東高等学校柔道大会出場

11月 茨城県団体勝ち抜き大会 2回戦

1月 茨城県選抜大会茨城県新人大会 兼全国大会予選出場

4月 平成18年度県南地区春季剣道大会出場

5月 平成18年度春季関東大会県予選 女子・男子個人団体 出場

6月 平成18年度全国高校総体県予選
女子・男子個人団体 出場
7月 平成18年度国体予選 出場

■陸上部

11月 茨城県陸上競技大会県大会 男子三段跳び 斉藤史朗 出場
4月 平成18年度県南地区高校総体出場 県大会出場
5月 平成18年度県民総体出場

■女子駅伝部

10月 第46回茨城県高等学校陸上競技新人大会一五〇〇m7位 三〇〇m7位 我妻美穂

11月 第14回関東高等学校駅伝大会出場
第14回関東高校女子駅伝競争大会茨城県予選会 3位

1月 第1回常総マラソン大会(5km) 優勝 蓑輪美穂/2位 我妻美穂/3位 荻津 優

第54回勝田全国マラソン大会(10km) 10位 蓑輪美穂

6月 第61回茨城県陸上競技選手権大会 一〇〇〇m5位 荻津 優/8位 我妻美穂

■水泳部

5月 第29回茨城県高校春季水泳競技大会 男子の部優勝

6月 第42回茨城県民総合体育大会水泳競技大会 男子の部優勝

第57回関東高校水泳競技大会茨城県予選会 男子の部優勝

7月 平成18年度第57回関東高校水泳競技大会兼第74回日本高等学校選手権水泳競技大会関東地域予選会 男子

子一〇〇m・二〇〇m平泳ぎ 第4位 堀井隆太/女子一〇〇m・二〇〇m背泳ぎ 第2位 島添紗妃

■弓道部

10月 県南A地区新人大会 男子団体県大会出場
11月 行方市弓道大会 射込の部 個人3位 高橋 悟/20位 菅原嵩太郎/21位 堤絵里子/金的賞 寺島 光

県南弓道大会 高校女子の部 個人2位 寺島 光

6月 国民体育大会選手選考会 二次予選進出 菅原嵩太郎

全国高等学校弓道大会茨城県予選個人決勝進出 男子 菅原嵩太郎/女子 堤絵里子

潮来市主催あやめ大会 個人優勝 菅原嵩太郎/4位 廣瀬健一郎/9位 徳能雄海

6月 関東高校ゴルフ選手権東関東大会 男子 90位 西野昌宏

関東高校ゴルフ選手権女子決勝大会 38位 富田麻衣

■パワリフティング部

11月 第21回茨城県高等学校パワリフティング選手権大会 男子団体優勝 男子個人60kg級・67.5kg級・75kg級・82.5kg級 優勝/女子個人60kg級・60kg超級 優勝

6月 第23回茨城県高等学校パワリフティング選手権大会 男子団体優勝 男子個人56kg級・60kg級・75kg級・82.5kg級・82.5kg超級 優勝

女子個人60kg級・60kg超級 優勝
7月 第24回全日本高等学校パワリフティング選手権大会

■卓球部

10月 藤代オープン大会出場 男子団体予選2位トーナメント優勝
11月 県新人戦(団体)出場 2回戦敗退

12月 東京選手権予選 男子シングルス 柴田貴弘・久保田幸多朗・田浦大樹 1次予選通過

4月 関東高校卓球選手権大会県南予選 男子団体優勝 男子シングルス3位 柴田貴弘/ベスト16 久保田幸多朗/男子ダブルス 準優勝 柴田貴弘・久保田幸多朗 以上、県大会出場

5月 全国高校総体県南予選 男子団体優勝 男子シングルス 優勝 柴田貴弘/ベスト16 久保田幸多朗/男子ダブルス 準優勝 柴田貴弘・久保田幸多朗 以上、県大会出場

7月 土浦市民大会(高校の部) 女子シングルス3位 小山内舞

■文化部

■吹奏楽部

10月 平成17年度第53回全日本吹奏楽コンクール高校の部 銀賞

11月 平成17年アンサンブルコンテスト県南地区大会高校の部 クラリネット八重奏 優秀賞(代表) 金管

八重奏 優秀賞(代表)
10月 赤い羽根募金/あしなが募金協力

■JRC部

11月 パキスタン北部地震募金活動/JRC国際交流会
12月 クリスマス献血キャンペーン/海外歳末助け合い募金/茨城・栃木JRC連絡協議会交流会

1月 骨髓バンク協力呼びかけ
2月 JRCトレセン事後研修会/AED講習会

3月 日本赤十字社本社見学会
4月 霞ヶ浦盲人マラソンボランティア
5月 GW献血キャンペーンの呼びかけ
6月 いぶき会主催JRC学習会
7月 ジャワ島地震募金活動/宇信高校交流会

11月 常友祭におけるリーダー公開(演武披露)

10月 演劇による青少年の主張事業演劇公演協力

11月 茨城県高等学校演劇祭実行委員会

7月 茨城県南A地区高等学校演劇祭出場

■書道部

10月 茨城県高等学校芸術祭美術展覧会書道の部 入選 矢口 由

6月 第35回全国高校書道展 特選 富田真衣

10月 クッキング部

10月 土浦カレールフェスティバル参加

進路指導室より

進路指導室長 菅谷博之

進路指導室では、生徒一人一人が将来の生活において望ましい自己実現が出来るよう、自己の能力や適性を認識させることが何より必要だと考えております。また、最近の大学入試は大変複雑化・多様化しております。生徒が情報を適切に収集できるよう、助言、指導を行っております。

現役進学率大幅アップ

八五・四%が現役で四年制大学合格！

お蔭様で本校は、年々四年制大学進学率が向上し、名実共に進学校としてのイメージを定着させていますが、本年の結果は一層それを裏付けるものとなりました。まず、三年生の八五・四%が現役で四年制大学へ合格し、昨年度の現役合格率七七・五%から大幅アップしたといえます。合格先も東京大学をはじめとする国公立大学へ一〇二名、私立大学へ九〇九名合格することができました。このことは、常総学院高等学校三カ年進路計画に基づいた生徒の皆さんの

努力の結晶であると思います。
新課程入試スタート

特に今年は新課程入試初年度であり、大学入試センター試験では、殆どの国公立大学で五教科七科目の試験が課せられ、さらに英語でリスニングが全員に課せられるなど、試験制度ばかりではなく、試験の本身も大きく変わる年でした。センター試験での本校生の取り組みの様子を聞くと、初めての受験で緊張した生徒も多く見られましたが、リスニングの満点者も数名出るなど、懸念された心配をよそに大健闘が見られました。

国公立一〇二名合格！

殆どの国公立大学においては、五教科七科目の試験が実施され、私立大に比べ受験生の勉強量の負担の重さを感じられますが、本校生は見事に目標達成し、昨年比一五名増の一〇二名が合格に至ることが出来ました。本校の特徴として、特に国公立は、推薦の数を除き一般試験での合格になります。この状況は、是非在校生にもつなげていってほしいと思います。

推薦指定校六〇〇名超える

卒業生の皆さんのご活躍のお陰で、年々指定校推薦の依頼を受け

る人数枠が拡大しております。本年も六〇〇名を超える推薦枠を頂いております。現在は、三学年に在学する生徒数以上の推薦枠を持つている状況です。大学の先生方に伺うと、本校よりの推薦入学者の評判も良く推薦者の中には、大学を卒業時に卒業生総代に選ばれそのまま大学院へ進学した卒業生もいるとの事です。進路指導部への影響も大きいので、大学進学する目的意識を持ったしっかりした生徒を選出できるよう三学年の先生方と検討を重ねております。

「桜咲く2006 in 常総」の発行

今年も卒業生のご協力を頂き、合格体験談集『桜咲く2006 in 常総』を平成十八年七月一日に発行する事ができました。本誌は、現役で合格した卒業生とその保護者の方々より投稿いただき、現役合格の貴重な体験を後輩へ伝えるべく毎年発行しております。本年も卒業生よりの四〇〇余の投稿を頂きましたが、紙面の関係で国公立大進学者三四名、私大進学者五二名、保護者二七名、計一一三名の体験談を掲載いたしました。尚、掲載された方々へは、七月中に郵

送でお届けさせていただきます。また、紙面の関係で掲載でき

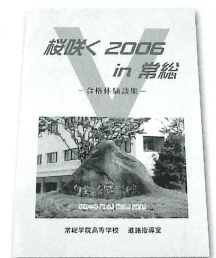
なかつた原稿も含めご提出頂いた全ての原稿は、進路指導室にて常に閲覧できるようにしております。さらに、本誌は、常総学院中学校、高校の在校生全員へ配布し、志望校へ現役合格出来るよう有効活用させて頂いております。

進路指導室利用状況

本校B棟一階の進路指導室は、進路担当教員が常駐し生徒への助言、アドバイスをっております。室内では、インターネット常時接続のパソコン五台を生徒に開放し、大学のホームページの閲覧や各模



試会社へ接続し個人の成績を呼び出し合格判定等を見る事ができるように

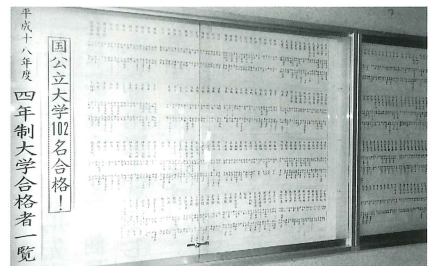


平成18年度入試 四年制大学合格者数 2006年5月1日現在

Table with columns for University Name (大学名) and Number of Students (人数). It lists various universities and their respective student counts, categorized by National Public (国公立大学) and Private (私立大学).

ります。赤本は全国の大学の過去五年分のもを備え、貸し出しも自由にできるようになっております。さらに願書も日本全国の大学のもを集めており、大型テレビモニターも入り各大学の案内DVDやビデオを各自ヘッドフォンで視聴出来ます。開室時間は、平日一八時三〇分まで、土曜日は一五時まで利用できます。特にインターネットは常にフル稼働状態が続い

ております。
中央玄関合格者掲示板
本校の中央玄関を入ると事務室入り口の両サイドのガラス入り掲示板一杯に本年度も合格者の氏名、大学、学部、学科を掲示しております。本校でのこの掲示は伝統的なものとなっております、通年で掲示しておりますので、来校の折には是非ご覧になって下さい。



入試説明会(受験生・保護者対象)

中学校

- 入試説明会(常総学院中学校)
11月23日(木) ①10:00~12:00 ②13:30~15:30
■柏会場入試説明会(プラザヘイアン柏)
12月9日(土) 10:00~11:30

高等学校

- 入試説明会(常総学院高等学校)
11月3日(祝)・18日(土)・26日(日) 10:00~12:30

平成19年度 入学試験

中学校

- 定員160名：医学部・法学部・東大コース
推薦(専願) 12月10日(日)
一般(第1回) 1月7日(日)
一般(第2回) 1月28日(日)

高等学校

- 定員495名：Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類・Ⅲ類(強化部コース)
推薦(単願) 1月10日(水)
一般(単願・併願) 1月17日(水)

〒300-0849 茨城県土浦市中村西根1010番地 URL http://www.joso.ac.jp/

常総学院で夢発見



◆お問い合わせ(入試広報部)◆

中学校 TEL:029-842-0708(代) 高等学校TEL:029-842-8771(代)

常総歴史館

昭和五九年

「校歌誕生」

昭和五九年、開校二年目を迎えた。生徒数の増加に伴う校舎（B棟）の増築、さらに体育館の完成と施設の充実がはかられた。

部活動においては、各部とも次第にその実力を蓄え、県内外に常総学院の名が知られつつあった。

それに呼応して、ぜひとも校歌を作りたいとの声が、校内に大きく沸き上がっていったのである。

折しも本校PTA副会長であった植木登氏（土浦市在住）の紹介で、当時の日本作詩家協会会長西沢爽先生に作詞を依頼する運びとなった。さらに作曲については、戦後の日本を代表する作曲家である芥川也寸志先生に西沢先生を通じてお願いすることとなった。

西沢爽先生は、「からたち日記」（島倉千代子歌唱）などで知られる作詞家であり、「日本近代歌謡の実証的研究」によって博士号を受けられている研究者でもある。さらにその大著「日本近代歌謡史」

によって、平成三年、毎日新聞社より第四五回出版文化賞特別賞を受賞、また昭和五七年には、多年に渡る活動に対して紫綬褒章を受けられている。

草稿の段階で、西沢先生より長坂校長（元理事・名誉校長）あてに懇切なる書簡を頂戴している。

『はじめ五七調も考えましたが、五七調は莊重ですが、澁澁とした音律ではありません。そのため高校らしく若さを表現するため七五調にしました。』

また、従来の校歌に多く見られるような難解な詞句をさけてわかりやすくしましたが、あまり平易ですと校歌の尊厳を失いますので、そのかねあいを考慮しました。

さらに、複雑な意味を盛ると、これまた難解で違和感を生じますので、単純にしました。

常総という音韻（し・そ）は、すつきりしていますので、さすがすがしさを生かすため、もう一言詞句を入れる手もありますが、このようにしました。

曲はしたがってリズムミカルで力強く若さにみちたメロディがほしいと思います。

いままでの校歌によつては、重々しいのはいいのですが、そのためダレてしまい、リズムによる生命感のないものがあります。

校歌といえど現代の若者にマッチしたものが望ましく、この点、芥川さんにもよく頼んでいます。

中略

歌詞は自主・誠実・創造の順、花は学問の神である菅原天神にあやかり梅にしました。』

芥川也寸志先生は、作家芥川龍之介氏のご子息である。日本音楽著作権協合理事長、日本作曲家協議会会長、宮城フィルハーモニー管弦楽団音楽総監督などを歴任され、昭和六〇年には紫綬褒章を受章されている。

校歌完成時、芥川先生から長坂校長に寄せられた書簡には、

『校歌出来上りましたのでお送り申し上げます。時々に応じ、気持ち託して、自由に歌えるように御指導頂ければ幸いです。』

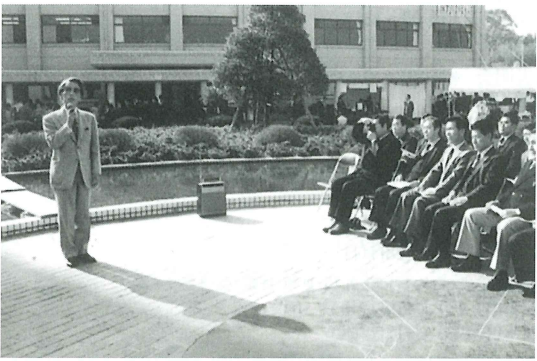
中略

校歌としては、類型を破り得たと思っております。少しでも

皆様に愛されながら歌われることを祈っております。』先生の確かな自信と自作への熱い思いが伝わってきます。

校歌発表会は、昭和五九年一月二三日、常友祭二日目の催しとしておこなわれた。この年、県吹奏楽コンクールで最優秀賞を受賞した吹奏楽部の伴奏により、「音楽」選択の生徒合唱団によって披露された。

締め括りとして、西沢先生から心に染みる講演を戴いた。先生は校歌詞中にある「世界に秀づ日本を 創りし明治 いま思え」に触れて、進取の精神にあふれた明治



西沢爽先生よりご講話を戴く

さらに先生の分身ともいえる本校校歌が、永く歌いつがれ、歌いつつ学び育った生徒が、将来の日本を担う青年となることを作者として夢みている、これこそが作者冥利につぎると語られた。

翌昭和六〇年の「校歌の碑」(長坂名誉校長揮毫)除幕式にも再び来校下さって、あたたかい励ましの言葉を戴いている。

さて、昭和六二年、第六九回全国高等学校野球選手権大会において、初出場ながら準優勝という快挙をなし得た。その際、阪神甲子園球場で何と五回もの校歌を聞くことができたのである。

芥川先生も、毎回テレビの電波



校歌碑除幕

の時代に遠く思いを致すべきこと、特に福沢諭吉をはじめとする新時代の担い手たちの心意気、変革への飽く無き情熱に刮目せよと説かれた。

を通して流れる本校校歌に大いに喜ばれ、声援をおくって戴いたと伝え聞いている。

芥川先生には、一度なりとも本校にお招きしたいと念願していたが、ご病気のため他界されてしまわれた。まことに残念、心残りなことである。

そのうち、両先生のお言葉通り、本校校歌は、入学式・卒業式をはじめとして、折にふれて歌われ、演奏され、在校生、卒業生、教職員ともども大きな心の拠り所として、日々の糧として、一人一人の胸に息づいているのである。

十周年記念誌『十年の歩み』再録 (杉田和美 記)



校歌の碑 (長坂名誉校長揮毫)

個人情報取扱いについて

同窓会では会員の皆様に関与活動と信頼をいただく組織作りの為、個人情報については、以下の考え方に沿って、適正な管理を行い、正確性・機密性の保持に努めています。

1. 情報を収集する目的
 - ・会則に基づく目的達成と同窓会活動の活性化 (目的とは会員相互の親睦及び母校の発展に寄与すること。同窓会活動とは母校の後援・会員名簿・会報誌の発行・母校への教育活動協力など、その他本会の目的を達成するために必要な活動)
 - ・母校からのお知らせや同窓会開催の為の連絡
2. 収集する情報の種類

氏名・住所・電話番号・勤務先(進学先)
その他に必要な場合は、生年月日、メールアドレスなどがあります。
3. 情報の収集方法

学校との十分な安全措置を講じたうえで、卒業時の情報を基礎データとし、より正確な情報を得る為、事業の都合できるかぎりご本人の申告を募っております。基本的には郵送での連絡となりますが、名簿作成などは事前に郵送した後、電話確認をさせて頂く場合があります。
4. 情報の提供

同窓会では、次の場合を除いて会員の皆様の情報を外部に提供することはありません。

 - ・母校の活動支援
 - ・会員ご本人が同意されている場合。
 - ・法令により必要と判断される場合。
 - ・会員の皆様または公共の利益の為に必要であると考えられる場合
5. 情報の管理方法

会員の皆様の情報を正確、最新なものにするよう常に適切な措置を講じています。また、会員以外の不当な名簿の入手や目的以外の不正利用防止に、最善を尽くし個人情報保護法に関する管理の体制と仕組みについて継続的改善を実施いたします。
6. 会員ご本人の情報の開示、訂正、削除のご請求
 - ・会員ご本人からご自身に関する情報の開示・修正・削除のご依頼があった場合はご本人であることを確認させていただいたうえで、すみやかに対応いたします。
 - ・会報誌等の郵便物の受取拒否などがありましたら、ご本人の意志を最優先致しますので、同窓会事務局までご連絡下さい。

第2回常総学院高等学校同窓会 ゴルフコンペ開催!!

平成18年3月6日(月)富士OMGゴルフクラブ出島コースに於いて同窓会ゴルフコンペを開催致しました。多数の会員様と学校教職員の参加のもとに行われました。当日は、天候、スコアにも恵まれ盛大に行われました。第2回常総学院高等学校同窓会ゴルフコンペ優勝は、大峰先生(本校職員)優勝スコアは?? ベストグロスはなんと…。今後とも継続して開催し会員と教職員が集まり、ゴルフを通して交流を深めて行ける場を作って行きますので、会員皆様の参加を多数お待ちしております。

第3回常総学院高等学校同窓会 ゴルフコンペの開催のお知らせ

第3回同窓会ゴルフコンペに会員の皆様の多数の参加をお待ちしております。お申し込みの際は4人一組でお申し込み下さい。詳細につきましては事務局までお気軽にお問い合わせ下さい。

開催日予定日 平成19年3月5日(月)

開催予定場所 富士OMGゴルフ出島コース

追悼

ご冥福をお祈りいたします

田中芳一先生

謹厳実直。

田中先生を一言で表現すると、この言葉が一番ふわしいのではないでしょうか。

私が高校在学中二年・三年と二年間にわたりお世話になりました。

先生は大変几帳面な方で、式典、全校集会等の公式行事のほか、どんなにささやかな行事においても必ず挨拶の原稿を用意され、時には前置きとして「何千何百何千字の原稿を用意しました」と話されることもしばしばでした。

平成三年三月、私たち六期生の卒業を無事見届け、先生は特別定年により第三代校長を退職されました。私は卒業式を終えた後、これまでの感謝の気持ちを含めて、先生への手紙を投函しました。数日後、先生より返事を頂戴しました。そこには、私の手紙を修了式の式辞として紹介したとありました。几帳面な先生らしく、やはり「ある卒業生より千二百字の手紙

を受け取りました。その中から三百二十字を選び出して読んでみます」で始まる式辞の原稿が同封されていました。自分のつたない手紙を全校生徒の前で読んで下さるとは、ただただ恐縮するばかりでした。

卒業して一年後、先生から一冊の本が届きました。タイトルは「校長、教頭たる私の教育実践」。先生が四十年にわたる教職生活を回顧し、それまでに行ってきたスピーチがまとめられていました。先生が発する一言一句の重みがひしひしと伝わってきました。

平成一三年、西東京市のご自宅まで結婚の報告に伺いました。先生は奥様とともに歓迎して下さいました。先生は「早稲田の卒業生は頻繁に報告に来てくれるけれど、常総の卒業生で来てくれたのは初めてです」と大変喜んで下さいました。奥様は、着物の端切れで作ったというパスケースを私たちにそれぞれ下さいました。先生のご著作とあわせ、私たちの宝物とな

っています。その時の先生の笑顔は今もって忘れられません。

このたびの訃報に接し、ただただ残念に思うばかりです。私たちは常総学院の功労者であり、偉大な教育者であられる田中先生のご功績を、次代へと語り継いで行くべきでありましょう。ここに田中先生より賜りましたご恩に感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集委員 第六期生 山口大次

田中芳一 たなかよしち

大正十二年生。茨城県新治村（現土浦市）に於て生育。昭和十四年以來石材建設業に専従、激しい労働に汗を流していたが、国家総動員法による国民徴用令が下り海軍軍属として第一海軍航空廠に服務。続いて一層強力な召集令が下り第一補充兵役から歩兵第二連隊等に服務。敗戦となつて召集解除の六年半後に早稲田大学卒業。昭和二十六年に初めて早稲田実業高校の教壇に立つ。勤務校は昭和三十八年に早稲田大学系属早稲田実業学校（高等部・中等部）と改めら

れ、昭和五十八年に同校の理事・教頭に選任されて昭和六十年に退職。昭和六十一年に常総学院高等学校の副校長として招かれ、平成三年に特別定年によつて同校第三代校長を退職。校長在任中、茨城県私学協会監事。

下玉利司先生

八月三〇日、一年余りの闘病生活の末、下玉利先生が逝去されました。

下玉利先生は、自身が高校時代は柔道部に在籍し、三年生のとき（昭和五十六年）に国民体育大会で優勝し、のち筑波大学に進学し、四年次には柔道部主将を務めるなど、素晴らしい活躍をされてきました。そして、昭和六十一年四月からは本校に勤務し、柔道部顧問として、生徒たちを関東大会・全国大会へと何度も導きました。

下玉利先生といえば、まず「体がデカイ」ということを皆様は思い浮かべると思います。私も彼に初めて会った時の第一印象はそうであり、プロレスラー並みの体格に圧倒されました。入学式での恒例の担任紹介の時も、彼が紹介さ

れると必ず会場から「オー」というどよめきがおこります。また「しもたまり」という名前自体もインパクトがありました。名前だけ「しもたまり」先生ときいて、勝手に先生を想像して、本人とのギャップに啞然とする生徒も結構いました。とにかく一度会っただけで、また、一回名前を聞いただけで絶対に忘れられない強烈なキャラクターでした。

性格も、まじめで真直ぐで、自分に対して厳しく、「ストイック」という言葉が似合う人物でした。

自分の目標とすることのためには、食事をはじめとする生活管理を徹底的に行い、自分を鍛えていくことができる人物でした。十年ほど前にボディビルに没頭していた時期がありました。わずかの期間で「ミスター茨城」のタイトルを獲得したことは、彼の意志の強さの証明でもありました。柔道でも生活指導でも、生徒に対して妥協を許さず、常に厳しく接することができたのも、彼が最も厳しく接するのが自分自身であったからだと思います。

しかし、彼の本当の魅力は厳し

さの裏側にある、やさしさや思いやりの部分でした。我々と交わす生徒たちの話題は、一人一人を「よく見ているなあ」と思わせる内容であり、本当に生徒のことが好きなのだなど感じさせられたものでした。若い頃は一緒によく飲みに行ったのですが、酒の強さにも驚かされましたが、独特の毒舌とくだらないジョークで随分と我々をなごませてくれました。病氣のことを知った時でも彼は努めて明るく振るまい、かえって見舞いに行ったこちらの方がホッとさせられてしまったことは今でもよく覚えています。これも彼の気遣いだったのでしょう。

下玉利先生は「病気に勝つ」という強い気持ちでこの一年余りを闘っていました。辛い治療にも真っ向から挑んでいました。今年の夏。おそらく、もう相当体力的に辛かったであろうと容易に想像できますが、それでも柔道の指導を続けていた下玉利先生の姿が忘れられません。本当に強く、そしてやさしかった下玉利司先生のご冥福をお祈りいたします。

教諭 柳下健一
合掌

国語科

職員室だより

国語科には現在常勤一七名、非常勤一四名おり、高校は藤田浩暁先生、中学校は桜井恵美先生を中心に、日々指導に打ち込んでいます。

高校では、AO入試などで小論文が課されることが多くなった昨今、国語科教員の仕事は単なる教科書内容の指導に限らなくなってきました。三年生を中心に、受験スケジュールが本格化する夏休みから二期にかけて

では、放課後遅くまで小論文や入学志望理由書の指導にあたっています。

中学校では、漢字教育・読書指導に力を入れています。漢字テスト週一回、漢字検定、図書館の活用、生徒による本の紹介等を実施しています。

他の教科に比べて女性教員が多いせいかな全体的に穏やかな雰囲気ですが、ひとたび教科指導の話になると皆が自分の意見を出し合い議論をぶつけ合う。国語科は熱心な教員の集まりです。



■平成17年度 常総学院高等学校同窓会決算書■

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

■平成18年度 常総学院高等学校同窓会予算書■

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

●収入の部 (単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異, 備考. Rows include 1.会費, 2.雑収入, 3.前年度繰越金, 合計.

●収入の部 (単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差異, 備考. Rows include 1.会費, 2.雑収入, 3.前年度繰越金, 合計.

●支出の部

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異, 備考. Rows include 1.消耗品費, 2.通信運搬費, 3.印刷製本費, 4.会議費, 5.旅費交通費, 6.部活動補助費, 7.記念品費, 8.広報費, 9.雑費, 10.次年度繰越金, 合計.

●支出の部

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差異, 備考. Rows include 1.消耗品費, 2.通信運搬費, 3.印刷製本費, 4.会議費, 5.旅費交通費, 6.部活動補助費, 7.記念品費, 8.広報費, 9.雑費, 10.次年度繰越金, 合計.

上記のとおり決算しました。

平成18年4月8日

常総学院高等学校同窓会会長 飯田晃久

上記の決算書について諸帳簿関係証書を監査した結果、適正かつ正確であることを証明いたします。

平成18年4月8日

会計監査 久保田美幸 前川信史

平成17年度決算について

- 1 収入の部 当初の予算より終身会費の納入が増えた為、会費収入が増となった。
2 支出の部 同窓会会報発行・郵送、パワーリフティング部・バドミントン部の各部活動へ部活動補助、卒業生・新入生への記念品等の事業活動を行い、支出は極力経費の節減に努め、ほぼ、予算通りに達成された。
第88回全国高等学校野球選手権大会出場に際し会員の皆様よりの寄付のご協力を賜り有難うございました。

平成18年度予算について

平成18年度予算は、平成18年度の事業計画と平成17年度の収支実績を勘案して編成した。

- 1 収入の部 卒業生の入会金、会費557名、会員年会費200名を収納予定として計上して計上した。
2 支出の部 本年度の事業計画は、①第六回同窓会会報の発行②会員への同窓会会報の郵送③各部活動への補助④卒業生・新入学生への記念品が主なものである。これに基づき予算を編成した。

平成18年度常総学院高等学校同窓会業務分担表

Table with 4 columns: 担当, 本部役員, 学校, 主な業務. Rows include 総務, 経理, 会報, 事務局, 監査.

卒業すると母校の様子を知る機会は少なくなるもので、街中で制服を見かけたり、新聞記事に名前を見つけないとき、懐かしさを覚えるのではないのでしょうか。今年には野球部が三年ぶりの甲子園出場、インターハイには水泳部が二〇年連続、バドミントン部が二年連続で出場を果たすなど、会員の皆様にも母校の活躍は十分届いたかと思えます。
皆様のお力添えにより、今年も無事同窓会会報第七号を発行することができました。今年三月現在、常総学院で巣立っていった卒業生数は一万六千名以上になりました。在校生の活躍はもろろのこと、社会で活躍する卒業生を皆様方のお借りして数多く紹介することで、同窓会誌が会員皆様の栄誉的存在になればと、ご理解と協力の皆様方には今後とも、ご理解と協力のほど、よろしくお願いいたします。
同窓会事務局 田中光恵 編集委員一同

同窓会事務局より

常総学院高等学校同窓会総会開催のお知らせ

日時 平成19年4月15日(日) 午前10時から
場所 常総学院高等学校 視聴覚教室
会員皆様の多数の出席をお待ちしております。

会報への寄稿をお願い致します。

会員皆様より会報への寄稿をお願いいたします。特に、同期会、クラス会開催等、卒業生の活躍に関する情報をお寄せ下さい。詳細は同窓会事務局までお願いいたします。

悪質な電話(勧誘)にご注意

同窓会事務局あるいは常総学院事務局と名乗って、電話などで強引に勧誘する事件が発生しています。不審な勧誘、確認調査を受けた場合には、即答せず同窓会事務局までお問い合わせください。同窓会事務局が調査を行う場合は同窓会長や学校長の名前が入った郵便で行います。

編集後記